

財務諸表分析		任 章	
---------------	--	------------	--

配当年次	1 年次	配当学期	2 学期	科目区分	アドバンスト
単位数	2 単位	必修・選択	選 択	授業形態	講 義

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	理論知識	○	会計業務や開示に関する実践的な知識を応用し、課題に取り組める。
	実践知識	○	理論的な知識を実践可能な知識に落とし込むことができる。
技能	分析解決技能	◎	課題に対する観察能力と、定性的、定量的な分析能力を習得している。
	実務技能	◎	実務的な簿記会計の技能を身につけることができる。
	新規事業技能		
態度	倫理観態度	○	経営倫理なかんずく会計倫理の観点を得、粉飾のリスクを知り、回避する。
	企業変革態度	○	会計処理とシステムの効率化、有効化促進のための視点を獲得。
	地域リーダー態度		
	国際協調態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務諸表分析

授業の概要

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を幅広く積み上げ、意思決定、証券市場、さらには公認会計士による情報保証の問題を、末広がりに考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計学の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに分析し、解釈し、自らの行動を選択するものか、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。思考プロセスにあってはむろん、国際会計基準（IFRS）の考え方を学び、その発想方法を援用することもあろう。

本講義の到達目標は、履修者に財務諸表分析の視点を与え、受講終了後、受講者が決算報告書（アニュアル・レポート）を分析、解釈、評価し、意思決定に必要な情報を、自在に取り出せるようになることである。前提科目たるアカウンティングの上位に位置する科目ではあるものの、より実際の、実践的に財務報告数値に対峙し、経営的判断のベースを得ることができるだろう。

教科書

任 章著『アカウンティングと財務諸表分析』 第10版 無償頒布
(ベーシック科目たるアカウンティングの授業で配布したテキストを継続使用します。)

参考書

- ・ (下記、例としてのものであり、推薦できる図書は実のところ数多い)
- 田中建二著『財務会計入門』中央経済社
- あずさ監査法人編『有価証券報告書の見方・読み方』清文社
(但し授業にては全く用いず、購入は任意である)
- ・ 任章著 (2017) 『監査と哲学—会計プロフェッションの懐疑心—』同文館 (会計学の概念と学問的定義、会計学の歴史、会計監査基準の展開、アメリカ会計界のダイナミズム等を知る上では参考にしていただけたと思います)

授業計画・内容

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る (プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある)。

- ①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。
【オリエンテーション】
- ②財務諸表書式の連関関係について：未実現損益の処理と包括利益の表示など。
【財務諸表のフォーマット】
- ③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。
【キャッシュフロー】
- ④利益操作の意図と報告利益品質について。
【アーニングズ・マネジメント】

- ⑤SFAS、IFRS 等、会計基準（GAAP）の各論について。
【GAAP】 【IFRS】 【SFAS】
- ⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価への展望。
【財務諸表分析】
- ⑦（英文）アニュアル・レポートのコンテキストの理解。
【アニュアル・レポート】
- ⑧SEC 行政処分事例の実際について。
【SEC】
- ⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。
【監査】
- ⑩バランスシートと会計的論点について（減損会計、時価会計等）。
【B/S イシュー】
- ⑪P/L と会計的論点について。
【P/L イシュー】
- ⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。
【ディスクロージャー】
- ⑬会計情報と投資意思決定について。
【投資意思決定】
- ⑭財務会計のWrap-up.
【財務会計】
- ⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。
【アプリケーション】... 以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

成績評価の方法	課題レポートの質(20%程度)、プレゼンテーション[=自ら選択した企業の財務諸表分析]の積極性やディスカッションに際しての貢献度(10%位)、試験の成績(2回実施で70%位)、等を適宜ウェイト付けし、総合的に100%にして判断します。
事前・事後学習の内容	各回の授業内容についての質問は教室のみならず、メールにても随時受け付け、個別に返答、あるいは学内イントラシステムを介して回答します。講義回終了時に可能な限り、次回の範囲を予告します。事前学習は軽く、その該当箇所のコンテンツにイメージを持つ程度で良いでしょう。事後学習は、講義時間中の説明でわからなかったところを教員に質問し、かつ、その後のミニテストに備えて、用語、計算式の両方に習熟して行くことが望まれます。
履修上の注意	必要があればその都度伝えます。各回配布済プリント等も、忘れず毎回、授業に際し持参してください。簡易な電卓も持参されると良いでしょう。財務諸表分析の講座ではありますが、計算上の分析にとどまらず、結果的には会計の機能や役立ちを、幅広く俯瞰する科目になります。
担当者からのメッセージ	教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するための、ファシリテーターとしての役割を果たします。履修者自身が選んだテーマで、プレゼンテーションをしていただく機会を設けます。ご自身の理解を深めるため、さらに、得られた知識や知見を、教室参加者と広くシェアするために、ぜひ積極的に取り組んでください。
キーワード	上記の中でも特に、GAAP、IFRS、B/S、P/L、財務諸表分析、意思決定。